【参考】 医療機関への搬送について

熱中症は、症例によっては急速に進行し重症化します。熱中症の疑いのある人を医療機関に搬送する際には、医療機関到着時に、熱中症を疑った検査と治療が迅速に開始されるよう、その場に居あわせた最も状況のよくわかる人が医療機関まで付き添って、発症までの経過や発症時の症状などを伝えるようにしましょう。

特に「暑い環境」で「それまで元気だった人が突然倒れた」のような、熱中症を強く疑わせる情報は、医療機関が熱中症の処置を即座に開始するために大事な情報ですので、積極的に伝えましょう。情報が十分伝わらない場合、（意識障害の患者として診断に手間取るなど）、結果として熱中症に対する処置を迅速に行えなくなる恐れもあります。

医療機関への搬送にあたっては、右表「熱中症の疑いがある患者について医療機関が知りたいこと」を参考に、患者の情報をあらかじめ整理して、医療機関へ伝えるようにしましょう。

熱中症の疑いがある患者について医療機関が知りたいこと

（分かる範囲で記入して下さい）

① 様子がおかしくなるまでの状況
- ・食事や飲水の摂取（十分な水分と塩分補給があったか） **無　有**
- ・活動場所　屋内 ・ 屋外　日陰 ・ 日向
  気温（　　）℃ 湿度（　　）% 暑さ指数（　　）
- ・何時間その環境にいたか （　　）時間
- ・活動内容
  （　　）
- ・どんな服装をしていたか（熱がこもりやすいか）（　　）
- ・帽子はかぶっていたか　**無　有**
- ・一緒に活動・労働していて通常と異なる点があったか
  （　　）

② 不具合になった時の状況
- ・失神・立ちくらみ　**無　有**
- ・頭痛　**無　有**
- ・めまい（目が回る）　**無　有**
- ・のどの渇き（口渇感）　**無　有**
- ・吐き気・嘔吐　**無　有**
- ・倦怠感　**無　有**
- ・四肢や腹筋のこむら返り（痛み）　**無　有**
- ・体温　（　　）℃【肢下温、その他（　　）】
- ・脈の数　**不規則　速い　遅い**
- ・呼吸の数　**不規則　速い　遅い**
- ・意識の状態　**目を開けている　ウトウトしがち　刺激で開眼　開眼しない**
- ・発汗の程度　**極めて多い（だらだら）　多い　少ない　ない**
- ・行動の異常（訳の分からない発語など）　**無　有**
- ・現場での緊急措置の有無と方法　**無　有（方法:　　）**

③ 最近の状況
- ・今シーズンいつから活動を始めたか（　）日前（　）週間前（　）月前
- ・体調（コンディション・疲労）　良好　平常　不良
- ・睡眠が足りているか　充分　不足
- ・風邪を引いていたか　**無　有**
- ・二日酔い　**無　有**

④ その他
- ・身長・体重　（　　cm　　kg ）
- ・いままでに熱中症になったことがあるか　**無　有**
- ・いままでにした病気【特に糖尿病、高血圧、心臓疾患、その他】
  病名（　　）
- ・現在服用中の薬はあるか　**無　有**
  種類（　　）
- ・酒やたばこの習慣はあるか　**無　有**
  種類（　　）